

JSQCニュース No.193

1996年12月

発行 社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (株)日本科学技術連盟東高円寺ビル内 電話 03 (5378) 1506

「品質」誌、投稿論文の募集!
会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティーレポート、レター、QCサロンです。
「品質」誌編集委員会

第6回 ルノー-TQMシンポジウムに参加して

NTTデータ通信株式会社 代表取締役会長 藤田史郎

綿密な準備と受け入れ

このシンポジウムは、欧州はもとより、米国やアジア各国のTQM推進関係者や関心を抱く人々が数千人集まるという大規模なイベントであり、何と1年も前から参加要請を受けていたが、あっという間に、開催時期(1996年10月29~30日)を迎えた。

この間のシンポジウム事務局の入念な準備作業には頭の下がる思いだ。また、私の会社のTQM担当スタッフにも苦勞をかけた。最後は、本番前日までOHPの手直しなどお願いして、確かに多くの人の協力を得て、今回の場に臨めたものと感謝している。

開催地のパリには、当学会の総会を岐阜の朝日大学で終えた翌日に成田を出、開催直前に到着した。時差ボケに酔っている暇も無く、早速打ち合わせが始まった。特に対談相手のベシュレール女史は、フランス国営放送のキャスターを務める人で、核心をついた質疑リハーサルにこちらも真剣になって対応した。何しろ、テレビの録画の関係から時間が秒単位で進行するため、いかに簡潔にわかりやすく話すかということ念頭において取り組んだ。

全体会議本番は拍手の連続

さて、大会初日、パリ・デ・Congreという大きな会場に2千人の聴衆を集めて全体会議が催された。講演や、パネル・ディスカッションが続いた後、私と聞き手のベシュレール女史2人だけが舞台にあがっての対談の時間になった。

さすがに、異郷の地で大勢の聴衆を前



にして緊張が漲った。私は、国内でよく講演を引き受けたりしても、あまり緊張しないのだが、勝手が違うというのは不安なものである。

ところが、いざ始まってみると、綿密な打ち合わせが功を奏したほか、聞き手との呼吸もうまくあって、だんだん緊張も解け、リズムに乗ってきた。つまり、計画、試行、調整、本番と、PDCAを回すことがここでも生きたように思う。

何よりも心強かったのは、私の発言に対して、途中で会場から何度も拍手が沸き起こったことである。これもあまり経験が無かったことなので一瞬驚いたが、徐々に会場との意思疎通が滑らかになっていくような気がして嬉しかった。

恐らく、自らのTQMに関する取り組みの過程を、成功も失敗も包み隠さず、正直に話し、反省と成果を具体的に述べたことが、聴衆の共感を得たのではないかと考えている。

会場からは質問票がたくさん提出され、できるだけ丁寧にお答えしたが、とうとう時間が足りなくなりました。最後に拍手で送られて退壇した時は、正直、ほっとした。

熱心な分科会の参加者

最終日は、いくつかの会場に分かれての分科会。私は第一会場にもう一人の日本人経営者とともに講演者として参加した。200人くらいの会場だが、テーマを選んで参加している人たちなので、全体会議以上の期待感が集まっているものと思われた。

私は、NTTデータ通信で実践してきたTQMの具体的な取り組みの姿と、常に提唱している「創造的TQM」の意識について同時通訳を受けながら熱意をもって話した。聴衆も関心の高さを示すように、メモをとりながら熱心に聴いて下さった。

講演後の質問の中で印象的だったのは、「仕事の効率化によって人員削減につながるのではないか」という、いかにも欧州らしい内容。これに対して私が「TQMの本質は人減らしではない。人間中心の、人を大切にすることが私のモットーである」と答えると喝采を浴びた。言葉を越えたコミュニケーションを得た思いで満足感がひろがった。

全体を通じて

今回の参加者は必ずしも全てTQMの専門家ではなかったが、企業や組織を改善しようという意欲はこちらにもひしひしと伝わってきた。

私たち日本の品質管理に携わる者も、もう一度初志に立ち返り、「品質」の意義と大切さを再認識して熱意をもって次のステージに進まねばならないと、心に誓って、晩秋の木々が色づき美しく染まるパリの街を後にした。

私の提言

新しい時代のTQMの手法の確立

愛知製鋼(株) 相談役 天野益夫

10月29日と30日、ルノー研究所が第6回の世界品質大会をパリで開催した。40名余りのパネリストが各国から集まり、日本からも7人が参加した。品質管理を実施しようとしている企業の幹部および学識者など2000人弱が集った。初日は3つの討論会があり、私は企業変革の舵取りというテーマで参画した。2日目は方針管理、新製品開発、機能別管理など8つの分科会に分かれ、リーン生産方式というテーマで1つのセッションを受け持った。



日本はかつてTQCによって企業の改善が進み、大きな経済の発展を遂げた。しかし、現在では世界各国がTQCの推進によって日本との格差は無くなりつつある。TQCの推進にTPMの手法を多く取り入れたり、特に発展途上国の展開については目を見張るものがあった。私は現在の日本のTQCに何か危機感の様なものを感じた。

日本は長引く不況、海外進出に伴う産業の空洞化などによって、かつての活力が無くなりつつある。我々経営に当たる者は、不透明な将来に対する舵取りに非常に苦勞している。将来のTQMの唱えた日常改善、再発防止、標準化、源流管理などでは対応できない一段高い次元の対応手法を求めている。それは、ビジョン経営、マーケティング、予知・予測、創造性、情報技術の活用などを推進するための手法であり、その必要性については既に指摘もされている。

日本品質管理学会は産学協調の場として最も理想的な学会であると思うので、大学と企業の研究のレベルアップを通し、一層の連携が必要であると思う。日本の産業界がかつてTQCによって一大飛躍したと同様、現在の産業界を更に発展させるため、これからの時代に必要な経営の手法を体系的に整備し、海外でも通用できる形につくり上げることが切に望まれる。日本品質管理学会が企業の経営の品質を高めるための役割を果たすことができれば、日本にとっても極めて喜ばしいことであると思う。

申込方法: 同封の参加申込書またはFAXで会員番号、氏名、勤務先、所属、連絡先、電話番号、FAX番号を明記の上関西支部迄申込み下さい。

●第64回シンポジウム(本部)
裏面に掲載

行事案内

●第222回事業所見学会(中部支部)

見学先: (株)INAX榎戸工場
(愛知県常滑市港町3-77)

事業概要: 衛生陶器、シャフトイレの研究製造
日時: 1月29日(木)13時~15時45分
テーマ: 魅力ある商品開発(水周り居住空間の提案)

定員: 50名(同業他社お断り)
参加費: 会員2,000円 非会員3,000円
申込締切: 1月20日(月)到着迄、定員締切
申込方法: 別記参照

●第60回講演会(中部支部)

日時: 2月10日(月)9時50分~16時
会場: 中電ホール(名古屋市東区東新町1地下鉄栄駅より徒歩8分)

内容: (1)ブレークスルー思考のすすめ(仮題)
日比野省三氏(中京大学教授)
(2)ソフトウェア品質保証の考え

方と実際(仮題)
保田勝通氏(株)日立製作所
日立技術研究所所長付)
(3)激動の時代における企業人の在り方(仮題)
天野益夫氏(愛知製鋼(株)相談役)

定員: 300名
参加費: 会員2,500円、非会員3,500円
申込締切: 2月3日(月)到着迄、定員締切
申込方法: いずれの行事も中部支部宛にFAXで会員No、氏名、勤務先住所、所属、電話番号を明記してお申込み下さい。

●第223回事業所見学会(本部)

見学先: 花王(株)花王生活科学研究所
(東京都墨田区文花2-1-3)

日時: 2月5日(木)13時30分~15時40分
テーマ: 「新エコシステムを駆使した

情報コミュニケーション」
定員: 30名(同業者お断り、定員締切)
参加費: 会員2,000円、非会員3,000円
申込方法: 同封参加申込書(関東一円会員)で本部事務局宛申込み下さい。

●第61回講演会(関西支部)

日時: 3月15日(土)14時~17時
会場: 中央電気倶楽部5階ホール
(大阪市北区堂島浜2-1-25)

テーマ: 「勝ち残るための新製品開発」
(1)清水祥一氏名古屋大学名誉教授
「これからの新商品開発のあり方」
(2)面影陽介氏日本電気ホームエレクトロニクス(株)ライティング事業部第2技術部長
「残光・3波長蛍光灯「ホタルック」の開発

定員: 150名
参加費: 会員2,500円、非会員3,500円
申込締切: 3月1日(土)

新規研究会の申請受付

研究開発委員会では、本年度後期に設置する新規研究会の申請を受け付けます。奮って申請して下さい。

とくに若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：平成9年4月～平成10年3月（1年間）

申請方法：「新規研究会設置申請書」を事務局へご請求下さい。

申請締切：平成9年2月24日(月)必着
なお、来年度（平成9年10月～10年9月）新設の研究会については、平成9年7月に申請を受け付けます。

研究会メモ

- 研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者（学界か産業界）を8～10人位事前に働きかけて集める。
- 研究目的と年間の研究会活動計画案を作成する。
- 1研究会のメンバー数は20人まで。
- 会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室。
- 時間は18時～20時、ただし会場の都合がつけば午後でも可、食事支給。
- 研究会運営費は1人1回当たり1,150円（内訳：通信費、資料代、食事代）ただし年間開催数は11回を限度とする。

第221回事業所見学会(関西支部)ルポ (榎堀場製作所)

さる7月21日、第221回事業所見学会が京都市南区にある(株)堀場製作所の京都本社で行われた。梅雨の合間の暑い1日であったが、本見学会のテーマが「地球環境とISO14001」ということで参加者は50名（応募者は100名以上）と非常に盛況な見学会であった。

(株)堀場製作所は1945年に現取締役会長の堀場雅夫氏が大学在学中に創業されたが、「地球にやさしい」製品を提供するのが堀場の使命との哲学のもと、大気計測、発生源計測（自動車エンジンの排気ガス分析など）、水質計測、温度計測などの測定機器や理化学機器の製品を開発してき

た会社である。また10年前には一部工場会社では最も早くより一部週休3日制を導入、さらに2年半前には分析機器メーカーでは他に先がけてISO9001の認証を取得し、来年5月にはISO14001の認証を取得すべく推進体制を整備されている。

見学会では、同社中村第2開発統括部長から会社概要の説明を受けた後、まず地球環境問題の中で世界各地で活躍する同社の計測機器の紹介ビデオの観賞会が行われた。地球温暖化、酸性雨等による環境破壊が起こらないよう監視する意味で、高性能で信頼できる測定機器の必要性が再認識されたと思う。次に、4班に分かれて事業所内の測定機器の組立工程、自動車エンジンのガス分析試験室、分析センターなどを見学した。同社では、人生の一番良い時間を過ごす会社での日常を積極的にエキサイティングなものにして欲しいという現会長の発案で社是を「おもしろおかしく」としているが、その言葉通り各従業員が非常に自由にのびのびと仕事をされているのが印象的であった。

最後に同社今木品質保証部長よりISO14000シリーズ規格の概要説明と、「7Challenge ISO14001」のもと、同社の認証取得のための推進体制の事例発表があった。質疑応答の時間では、推進体制のみならず、環境側面や環境影響評価など個々にわたって種々の質問がされ、この問題への関心の高さを改めて感じた見学会であった。

和田法明（バンドー化学）

第220回事業所見学会(中部支部)ルポ ポーラ化成工業(袋井工場)

さる8月28日(木)、第220回事業所見学会が、ポーラ化成工業(株)袋井工場で、「化粧品製造における品質管理の実施状況～GMP活動において～」をテーマに、33名が参加して行われた。

ポーラ化成工業(株)は、1929年の創業で、企業理念である「美と健康」をテーマに高品質の化粧品や文化事業などの多彩な事業を展開する、生活文化創造企業であ

る。特に主力である化粧品の訪問販売における売上げは、国内No.1、世界でもビッグ2に数えられている。

袋井工場は、クリーム、乳液、化粧水、シャンプー、リンスなどを製造するポーラの主力工場で、クリーンな生産環境のもとで、化粧品のオーダーに合わせて、多変種・多変量生産を実現している点が特徴である。工場内は医療品製造レベルの「クラス10万」と呼ばれるクリーンな環境を維持するため、工場に入る前のエアシャワー室や出入口のエアカーテン、室内の空気清浄機などで徹底的に雑菌や塵埃をシャットアウトしている。

今回のテーマである「GMP」とは、Good Manufacturing Practice すなわちいいものを生産工程の中で作りこむために、1980年、厚生省が医薬品に対して薬事法に基づき適用した基準で、1981年から化粧品業界にも、自主規制として展開されたものである。

この活動においては、本当に安全なものを効率的につくることが、ポイントとなるため、製造は製造工程責任者、および品質管理責任者のもとで独立した組織として行われ、出荷可否の最終判断は責任技術者が行っている。これら仕事の責任やプロセス、および品目ごとの基準・標準類は、年2回厚生省の関係機関による立入検査がある。またこれら帳票および製品のサンプルは、最低3年の保管が義務付けられており、同社の品質に対する厳しい姿勢が伺える。

本当に安心できる品質の製品を、必要な時に必要なだけ生産するという課題を極めて高い次元で両立していることが納得させられる見学会であった。

国島徹也（デンソー）

品質/TQM専門家求人案内 シンガポール生産性標準局 (PSB) 品質プログラムセンター (QP)

PSBはシンガポール政府の機関で生産性向上を促進するための新しい組織、設立5年、QPはTotal Quality Process, Cast of Quality, 中小企業向け品質等々

の分野でシンガポールでの先駆けとなる。
採用条件 3～5年の品質分野での実務経験をもつ、学士以上の有資格者、修士、博士号取得者歓迎、英語で話す、書くことが出来る者

地 位 Senior officer

給与・履歴書送付先・本件の問合せ先

Dr.George Yong

Sr.Consultant and Head of QP
Quality Division.PSB

Tel 65 772 9579 FAX 65 872 0531

e-mail: gyong@pacific.net.sg

本件についての仲立ち

狩野紀昭氏東京理科大学工学部経営工学科教授 Tel/Fax03-3260-4234(直)

e-mail: kano@ms.kagu.sut.ac.jp

行 事 案 内

●第64回シンポジウム(本部)予告

日 時：3月12日(木)9時30分～16時30分
会 場：(財)日本科学技術連盟1号館講堂

(東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11)

テーマ：「情報技術を生かしたTQM」

内 容：講演「情報技術を生かしたTQM」(仮題)
細田正勝氏日本精工(株)顧問
事例発表(4件)日本精工(株)、富士ゼロックス、他2社交渉中
パネル討論会 パネルリーダー 兼子毅氏武蔵工業大学講師

定 員：200名

参加費：会員 4,000円(締切後4,500円)
非会員6,000円(締切後6,500円)

申込方法：平成9年1月中旬にご案内・参加申込書を送付します。

1996年11月の入会者紹介

1996年11月15日の理事会において、下記のとおり、正会員32名、賛助会員1社1口の入会が承認された。

(正会員) 32名 (敬称略)

- 玉浦賢二(日産自動車)、○山下昌宏(クボタ)、○松田眞一(南山大学)、○知久眞司(チッソ石油化学)、○梶原政亞(帝人化成)、○豊島正行(ブラザー工業)、○原田研一(オリンパス光学工業)、○荘司利昭(前田建設工業)、○吉井克宜(味の素)、○山崎利明(池上通信機)、○榎本栖士(中山製鋼所)、○西辻孝三(古河電気工業)、○日比正晴・佐藤和文(関西ペイント)、○武岡敬吉(武岡品質管理事務所)、○芝辻満雄(尼崎工作所)、○杉山の男(日本航空)、○小林淳一(日本飛行機)、高松道夫(住友金属鉱山)、○黒田泰生(ダイキン工業)、○蔵並 貢・筒井 勲(竹中工務店)、○山本 弘(大日本インキ化学工業)、○永井康幸(東京理科大学)、○菊地紘一(帝人経営技術センター)、○中野知之(ゼクセル)、○安江良博(日本ヒューレット・パッカー)、○伊藤和宏(パウダーテック)、○三木紳市・前田孝・菅原宏文・青木 勝(愛知製鋼)

(賛助会員) 1社1口

○前田建設工業 関西支社(取締役 関西支社長 谷口弘芳)

11月15日現在の会員数

正会員：2961名

準会員：37名

賛助会員：232社、257口

(社)日本品質管理学会第26年度行事計画

1996年12月13日現在

| 行事 | 月 | H8 10月 | 11月 | 12月 | H9年 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
|-------------------------|----|------------------------|----------------|----------------|-----------------|----------------------|------------------------------|--------|----------------------------|--------|----------------|------------|----------------|----------------------|
| 研究発表会 | | | | | | | | | 第55回(本部) 31日(木) 日科技連 | | 第56回(関西) | 第57回(中部) | | |
| 年次大会・通常総会 | | 第26回 26日(土) 朝日大学 | | | | | | | | | | | | 第27回 |
| 講演会 | | 第59回 本部 21日(月) | | | | 第60回 10日(月) 中部 | 第61回 15日(土) 関西 | | | | 第62回 中部 | 第63回 関西 | | 第64回 13日(月) 本部 |
| 公開大学講座 | | | | | | | | | | | | | 第37回 | |
| ヤング・サマー・セミナー | | | | | | | | | | | | 第5回 | | |
| シンポジウム | | | | | | | 第64回 12日(木) 本部 日科技連 | | 第65回 中部 第66回 関西 | | | | 第67回 本部 | |
| 事業所見学会 | 本部 | | | | | 第223回 5日(木) | | | | 第227回 | 第230回 | | | |
| | 中部 | | | | 第222回 29日(木) | | | 第225回 | | 第228回 | | 第231回 | | |
| | 関西 | | | | | | 第224回 | 第226回 | | 第229回 | | 第232回 | | |
| 評議員会 | | 21日(月) | | | | | | | 31日(土) | | | | | 13日(月) |
| 理事会 | | 288回 9日(木) | 289回 15日(金) | 290回 13日(金) | | 291回 7日(金) | 292回 14日(金) | | 293回 23日(金) | | 294回 18日(金) | | 295回 19日(金) | 296回 6日(月) |
| 庶務・資格審査・規定 会計・合同委員会 | | 1日(火) | 8日(金) | 6日(金) | 31日(金) | | 7日(金) | | 16日(金) | | 11日(金) | | 12日(金) | 3日(金) |
| 「品質」誌編集委員会 (ニュース委員会) | A | 21日(月) | 14日(木) | 16日(月) | 20日(月) | 17日(月) | 17日(月) | 14日(月) | 19日(月) | 16日(月) | 14日(月) | 18日(月) | 22日(月) | 20日(月) |
| | B | 23日(木) | | 18日(木) | | | | | | | | | | |
| 行事委員会 | | 2日(木) | 12日(火) | 5日(木) | 27日(月) | | 4日(火) | | | | | | | |
| 研究開発委員会 | | | | | | | | | | | | | | |

上記行事の詳細につきましては、決まり次第JSQCニュースでご案内いたします。必ずJSQCニュースをご覧ください。